

溝切り・中干し

1. 溝切り

溝切りは中干しを効果的に行うために不可欠です。また中干し以降の入排水管理を速やかに行うためにも有効です。目標茎数の7～8割(コシヒカリ:移植茎数16本/株、直播茎数100本/m)が確保された時点で落水し、2.5m～3m(8条～10条)間隔で溝きりを行いましょう。



2. 中干し



中干しは無効分げつの発生を抑制することで過剰分げつとならないようにします。また圃場を酸化的条件にすることで根腐れを抑制し、根の伸長を促進します。中干しが不十分になると根張りが劣ったり、地耐力が不十分のまま登熟期となり、登熟後半に稲の活力低下を招きやすくなるため中干しは十分に行いましょう。

半湿田(一般的な圃場)では小さなヒビが入るくらいまで強めに干しましょう。ただし大きな亀裂が入らないように注意しましょう。

乾田(浅い田んぼ)では足跡に水が少し入る程度まで干しましょう。

★日本晴作付けの方は中干し時期に注意★

日本晴は分げつが旺盛で過剰分げつしやすいため注意しましょう。過剰分げつすることにより幼穂形成期以降に栄養不足となり減収することが懸念されるため、中干しが遅れないようにしましょう。



3. 病害対策

この時期、高温多湿になるため、いもち病や紋枯病にかかりやすくなります。苗箱施薬(ルーチンエキスパート粒剤)を使用していない移植の場合や、直播の場合は、6月上中旬頃にいもち病予防としてオリゼメート粒剤、7月中旬頃に紋枯病予防としてリンバー粒剤を散布してください。また、補植用の置き苗はいもち病が発生しやすく、葉いもちの伝染源となるので、土中に埋めるなどして早期に圃場から除去しましょう。



オリゼメート(粒)3kg
当用価格 2,880円(税別)

リンバー(粒)3kg
当用価格 3,480円(税別)

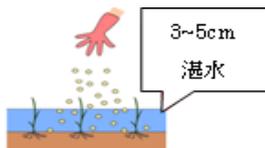
中・後期除草剤を使ってしっかり除草

残った雑草をしっかり除草することは、斑点米カメムシの侵入防止や収穫量への影響があることはもちろん、翌年の発生を減らしコスト低減につながります。

ノビエ対策には



クリンチャー1^{kg}粒剤



移植水稻：
ノビエ4葉期 1kg/10a 移植後7日～
(収穫30日前まで)
ノビエ5葉期 1.5kg/10a 移植後25日～
(収穫30日前まで)



広葉雑草対策には



バサグラン3^{kg}粒剤



移植水稻：
移植後15～55日（収穫50日前まで）
【散布方法】
水を落として「足あと水」の状態になったら、水口・水尻をしっかり止めて散布しましょう。散布後も水口・水尻を止めたまま、少なくとも3日以上放置しましょう。
※スポット(部分)処理も可能



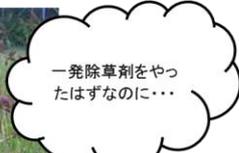
ノビエ対策および広葉雑草に

ニトウリュウ1^{kg}粒剤

移植後15日～ノビエ4葉期
(移植後60日前まで)

ワイドアタックD1^{kg}粒剤

移植後15日～ノビエ5葉期
(移植後60日前まで)



**田んぼに残ったノビエやホタルイは、斑点米カメムシを引き寄せます。
斑点米を減らすためにも、田んぼの雑草はしっかり除草しましょう。**

クリンチャー1^{kg}粒剤
当用価格 1,980円(税別)

ニトウリュウ1^{kg}粒剤
当用価格 3,180円(税別)

バサグラン3^{kg}粒剤
引取価格 3,280円(税別)

ワイドアタックD1^{kg}粒剤
当用価格 4,080円(税別)